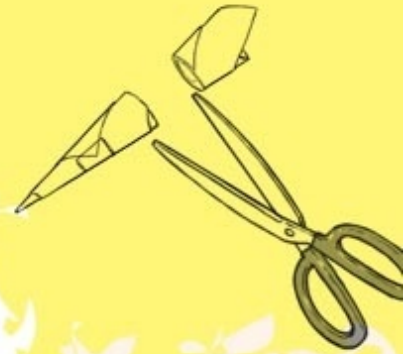


昭和

子供の遊び図鑑

第③巻

手作り遊び PART 3



村川 正敏

手作り遊び

PART 3

目次

ブーブー笛	・・・	2
吹き矢	・・・	4
弓	・・・	6
ブーメラン	・・・	8
あぶりだし	・・・	9
どろ鉄砲	・・・	10
スポーク手裏剣	・・・	12
むぎわらシャボン玉	・・・	13
パチンコ銃	・・・	14
ろうそくカンテラ	・・・	16
石のカイロ	・・・	17
サイコロ作り	・・・	18
アイスボンボンヨーヨー	・・・	20
手作りバット	・・・	21

いろいろなものを材料にし、手作りする遊びです。形のないものから何かを作り出すおもしろさと、出来上がったもので遊ぶ二つのおもしろさがあります。昔の子供の、遊びの基本といえるでしょう。

手作り遊び PART2 の続きになります。内容に連続性はないので、このパートだけでも読めます。PART1、PART2 およびこの後に続く続編を読むと、さらに楽しく読めます。

このパートでは、ちょっと危険な匂いのするものを集めました。遊び方によってはそれなりの危険を伴うので、十分に注意してください。

ブーブー笛

- 安全 ○
- おすすめ ◎
- 男の子向け ◎
- 女の子向け ◎

材料：竹、竹の葉
道具：のこぎり、ナイフ



ブーブーと音の鳴る、竹と笹の葉で作る笛です。ちゃんとした呼び名はなかったので、イメージとしてこの名前を当てました。鳥寄せ笛よりも手軽に、簡単に作れます。男の子なら小刀一本で上手に作りました。女の子は進んで作るという感じではなかったので、お父さんやお兄ちゃんに作ってもらって遊んでいたと思います。

形は楽器の笛に近い印象ですが、音色は意外に野太く低いので、みんながいっせいに吹くとうるさいものでした。夜中に吹いて、うるさいと親に怒られたこともあります。竹の太さをいろいろ変えてみると、よりきれいな音色が出るかもしれません。子供のころはそこまで試したことはありません。いろいろな音色が出せれば音楽にも応用できるかもしれません。

ただ、一つ弱点は、日にちがたって、竹や笹が干からびると音が出なくなるところです。作ってすぐのフレッシュな時に楽しめます。

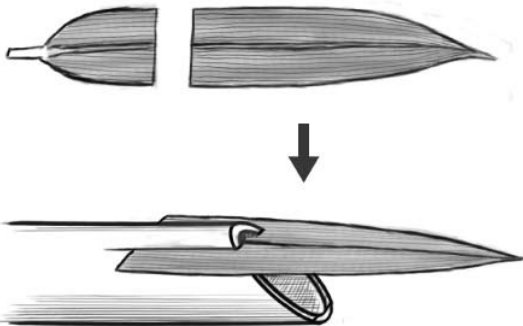
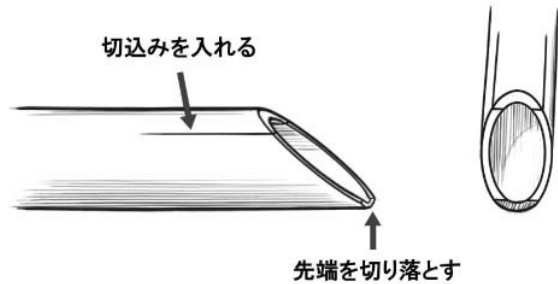


直径1cmくらいの竹の節のないところを使います。

のこぎりやナイフで、一方はまっすぐ、もう一方は斜めに切り落とします。

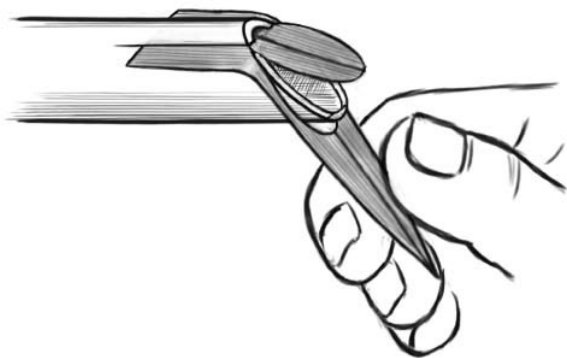
斜めの先端を少し切り落とします。目安は、竹の穴に少ししかかるところで切ります。

そして、竹の葉をはさむ切り込みを入れます。場所は先端とは反対の、穴ぎりぎりのところへ、2cmくらいの深さにします。



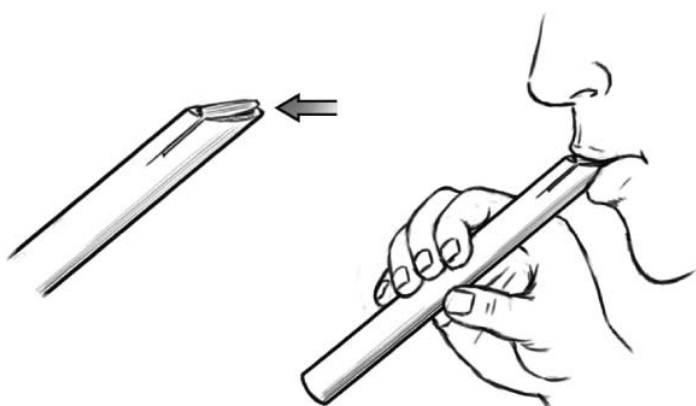
竹の葉を一枚取り、柄の方を少し切り離します。二つに折って、その逆に折り返すと、何度かできれいに切れます。

残った部分を表を上向きにし、切り込みに、外れないようしっかりと差し込みます。



竹の葉を斜めの切り口に当てて下に引っ張り、切り口にぴったり合う形に切り抜きます。はみ出していればナイフできれいにします。

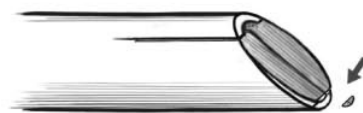
葉っぱを切り口に押し付けて下側に曲げれば、一応の完成です。



試しに吹いてみます。少し下向きにかまえて、葉っぱと竹のすき間に息を吹き込みます。うまくいけば葉っぱがブルブルと震え、ブーブーという音が鳴ります。

息が抜ける時は、葉っぱの曲げ方が足りません。もう少し曲げます。

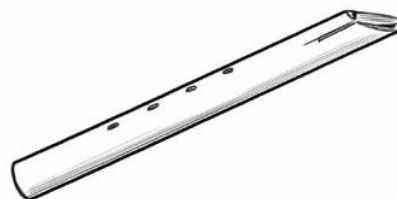
葉っぱが竹にはり付いて吹けなくなる時は、少し角度を変えて吹いてみます。何回やっても鳴らないならば、竹と葉の間にすき間がうまくできてないので、葉の先端を少し切つてすき間を作ってみましょう。



ちょっとしたことで鳴らないことがあるので、いろいろ試してみてください。うまく鳴った時はとても気持ちのいいものです。

吹く側に風船を取り付け、反対側から風船をふくらませると、その風船の力で鳴らすこともできます。これに似たおもちゃも売られていました。

また、竹に穴をいくつか開ければ、楽器のように音階を作ることもできます。



注意：加工するのにいろいろな道具を使うので、その時にけがをしないように注意しましょう。

吹き矢

- 安全 △
おすすめ ○
男の子向け ◎
女の子向け △

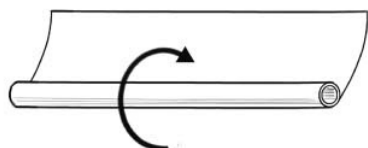
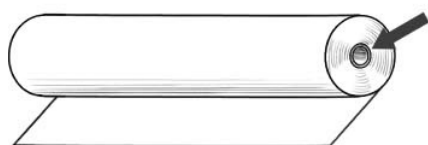
材料：竹・パイプ類、紙、のり、針、
小石、どんぐり、つまようじ、
綿、ティッシュ
道具：のこぎり、小刀、はさみ



吹き矢は、筒と矢があればできる、簡単で手軽な遊びです。安全に遊べるものから、かなり危険なものまでありました。危険なものには、矢の先に針や釘を仕込んで刺さるようにしたものがあります。刺さるものは吹き矢の基本ですが、安全を考えると十分な注意が必要です。安全なものには、刺さる細工をしていないものや、矢ではなく、小石やどんぐり、紙を丸めただけのものを代わりに飛ばすものがあります。

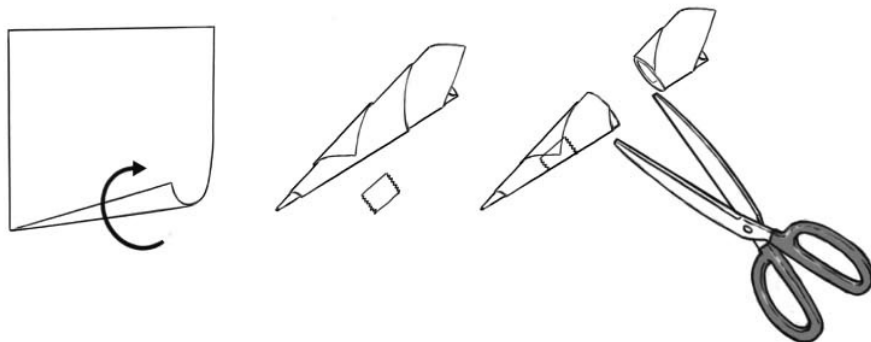
的をねらって当てるのが基本の遊び方です。段ボールで丸い的を作り、ねらい撃ちします。何本かの矢を放って、ダーツのように得点を競うといいでしょう。矢が的の真ん中に当たって刺さるととても気持ちのいいものでした。他には立てたエンピツを倒したり、りんごやみかん、スイカやカボチャや大根などに刺して遊びました。ただし、刺した所から傷んで腐ったりするので、長く保存するものには向けない方がいいでしょう。

矢の性質によって危険極まりないものからごく安全なものまで様々なので、その性質をよくわかった遊び方をすることが大切です。



吹くための筒は、竹の一節を切って使うのが基本でした。ただ、節と節の間の短いところしか使えないので、強力なものにするなら水道管の細く長いものを使います。

今ならば、プラスチックの筒や、FAX用紙の芯になっている紙の筒など、ちょうどいい感じのものがいろいろとあります。適当なものがないければ、紙を筒状に丸めて作ってもいいです。ただし、紙の材質のものは、使い続けるとつばでぬれてふやけ、やわらかくなって使えなくなることがあります。



矢の基本は紙で三角すいの形にしたものです。先をとがらせて紙を巻き、テープやのりで貼り付けます。そして、吹き筒よりも少し細いところで余分を切り落とせば出来あがりです。飛ばすだけならこれで十分です。



刺さるようになるには、虫ピンや待ち針などを、外れないように取り付けます。三角すいの先にティッシュなどを詰め、接着剤などで固めます。



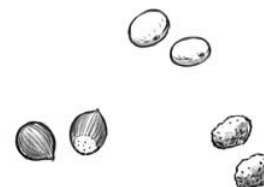
強力にするには、筒より細い竹を何段か組み合わせて先を細くし、先にとがらせた釘を仕込んだものを使いました。ただし、これは武器になるくらい非常に危険なので、おすすめはできるものではありません。



安全に遊ぶには、紙を丸めて玉にしたものを使います。その場で簡単にいくつでも作れるので、手軽に遊ぶには最適でした。

また、紙を筒状に丸めたただけのものでも飛ばすには十分です。ただし、まっすぐに安定して飛ばすのは少しむずかしいです。

他には、つまよう枝に綿を巻きつけたものや、大豆、木の実、程よい大きさの石ころなども使います。



飛ばし方は簡単です。

矢や玉を筒に込め、筒に口を軽く当てて、フッと、短く、ただし勢いよく息を吹き込みます。筒の中に全部の息を、口の横からもれないように吹き込むのがコツです。すると、筒の先から矢や玉が、ヒュッと勢いよく飛び出します。

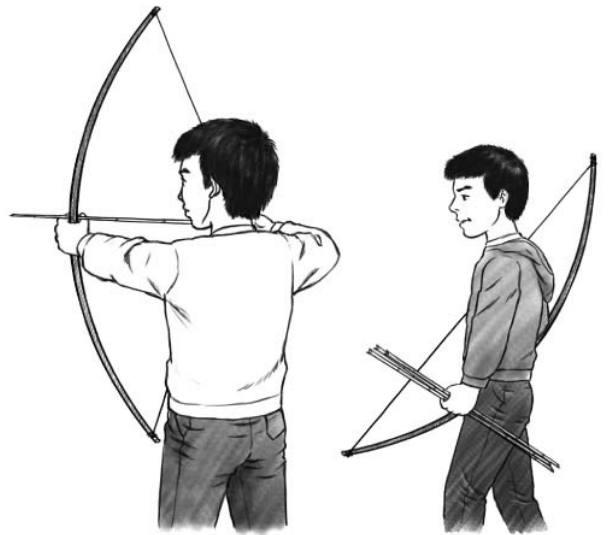
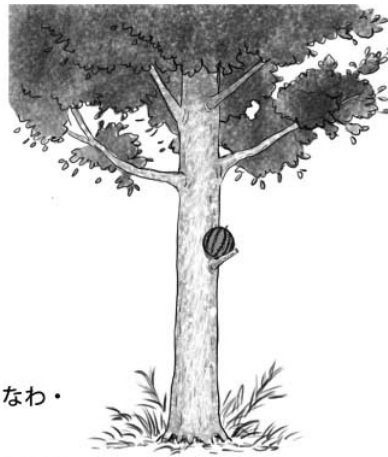
筒を的に向けてしっかり支え、瞬間的に息を吹き込むのがコツです。

注意 : 針や釘で刺さるようにしたものは、目などに当たるとたいへん危険なので、絶対に人に向けて飛ばさないようにしましょう。

弓

- 安全 △
- おすすめ ○
- 男の子向け ◎
- 女の子向け △

材料：竹、木の棒、ひも・なわ・
針金、羽、糸
道具：小刀、のこぎり、ナタなど

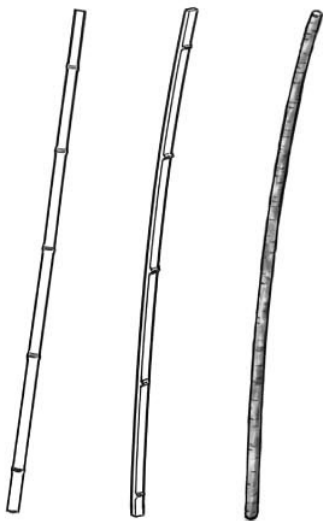


男の子はとかく、武器のたぐいが好きなものです。弓はその中でも最たるものでした。時代劇や冒険映画、小説やマンガなどに必ずと言っていいほど出てくる、重要であこがれの武器でした。ヒーローがねらいを定め、ピシッ！と放った矢が標的に当たるのを見た時、自分にもできるに違いない、絶対やってみたいと思うのです。

丈夫でしっかりしたものを作るなら、のこぎりやナタを使って太い竹や木の棒を切り出して作らなくてはなりません。しかし、威力が小さいものであれば小刀一本で容易に作れたので、野山に出かけては、そこで手に入る材料で作りました。弓本体は太めの竹、つるはくずなどのつる植物、弓矢は細くて長い矢竹という具合です。自分の家なら材料も道具もしっかりしたものがあるので、もっと強いものができました。年ごとに何度もいくつも作った思い出があります。

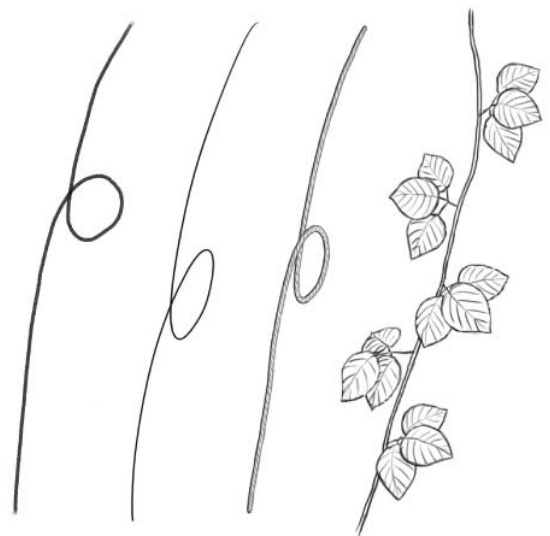
できそこないのスイカや大根、カボチャなどの大きくてねらいをつけやすいものや、わら積み、立ち木そのもの、段ボールに描いた丸などを的にしました。スイカにうまく当り、ザックッと射抜いた瞬間は、ワクワクするたまらない感覚がありました。

冒険好きの男の子にはたまらない遊びですが、使い方を間違えればたいへん危険なものです。人のいる方向や物のある方向には飛ばさないようにしましょう。思いもよらないはね返しをすることがあるので、ねらう的から他の人は遠く離れてもらうようにします。一度、友達と山へ行って90度くらいの角度ではねて、その友達の近くに飛んで行き、ヒヤッとしたことがあります。また、犬や猫、鳥などをねらうのもやめましょう。



弓の本体は、女竹、真竹や孟宗竹を割ったもの、細い木の幹が材料になりました。長さは、1～1.5mにします。できればよく乾燥させたもののがいいのですが、すぐに作りたいので、切り倒した生のものをそのまま使いました。ただこれだと、出来てすぐはいいのですが、しばらくすると形がなじんでしまって弾力が弱くなります。

弓のつるは、麻なわ、針金、つる植物のつる、ビニールひもなどが材料になります。





弓のつるがずれないように、両端に溝をきざみます。一方につるをかけ、はずれないようにしっかりと巻いて結びます。

巻いた方を下にし、弓の本体をギュッと体重をかけて曲げます。曲がりを保ったまま、もう一方につるを巻いて結び、しっかりと張ります。この張り方が一番大切です。ギュッと曲げた状態ですばやくきざんだ溝につるを引っかけ、つるをぐるぐる巻きにしてゆるまないように結びます。

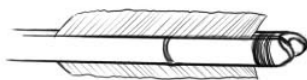
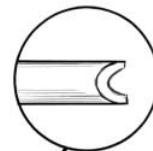
試しにつるを後ろに引き絞ってみましょう。強ければ強いほどいいです。弱くて簡単に引けるようであれば、弓矢を飛ばせないで、張り直すか、材料を変えて作り直します。



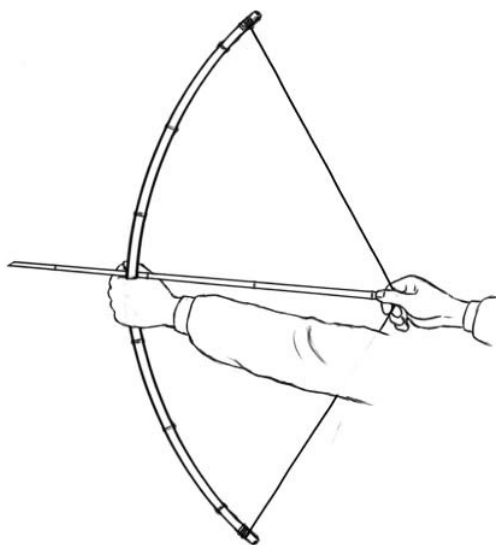
矢は細長い女竹や矢竹を切っただけのものが基本です。時には凝った作り方で、拾ったハトの羽を矢羽に付けることもありました。

弓矢には細長い、できるだけまっすぐな竹を切って使います。枝をはらい、先を斜めに切り、手元はつるに引っかけるへこみが出来るように切ります。節はでっぱりが残らないように、きれいに削ります。でない、弓を放った時、矢が指の上を滑る時、それでけがをすることあるからです。

できれば、弓矢は5、6本用意します。



矢羽を付ける時は、手元を2つに割って、そこに羽をはさむようにします。はずれないよう、羽の後ろの部分を細い糸で巻き止めます。



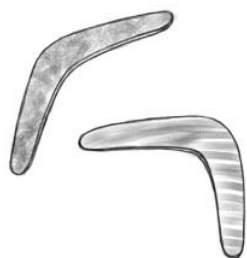
左手で弓を持ち、右手で矢をつるにつがえます。左手を前にまっすぐ伸ばし、つるをいっぱい引きしぼります。目の高さに矢を構えて、ねらいを定め、矢を持つ手を離します。弓の弾力で矢が前へ勢いよく飛ばば成功です。10～15m くらいの距離なら、割と正確にねらうことができます。

注意： 使い方を間違えればたいへん危険なものなので、人のいる方向や物のある方向には飛ばさないようにしましょう。

ブーメラン

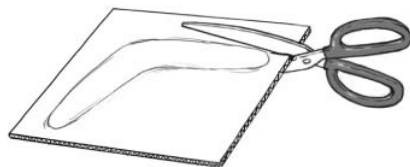
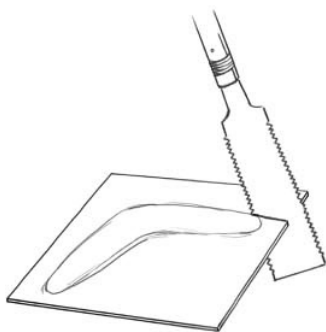
- 安全 △
おすすめ ○
男の子向け ◎
女の子向け △

材料：ベニヤ板、段ボール紙
道具：のこぎり、はさみ、カッター



ブーメランはオーストラリアの先住民が使う狩猟用の武器です。子供のころ、「怪獣王子」という特撮の番組がテレビで放映されており、その主人公がブーメランを使っていたのがかっこよく、それにあこがれて遊んだものです。おおざっぱに言えば、への字型をした板になります。本物は木を削り出してその形にしますが、遊びの道具とするのであれば、ベニヤ板で作るのがいいでしょう。厚紙やダンボールでもできますが、軽くて飛ばしにくいかもしれません。いずれにしても、大きさと厚み・重さのバランスが大事なので、いくつか作ってみて試してみましょう。

飛ばす時は広い場所で飛ばすようにします。広々とした場所をくるくる飛び回ると、たいへん気持ちのいいものです。思わぬ方向に飛んで行くこともありますので、人がいないことを確認して投げるのはもちろん、仲間がいたら、「投げるぞ！」と声をかけて投げるようにしましょう。



板に形を描き、のこぎりで切り出します。切り口はサンドペーパーで丸めておくのがいいでしょう。厚紙やダンボールは、はさみやカッターで切りましょう。厚みや重さが足りないようであれば、何枚か貼り合わせます。



出来上がったら飛ばしてみましょう。への字の右端を持ち、斜め上空に向けて投げ上げます。

回転しながらぐりと回るように飛び、自分の近くに戻って来るはずですが、出来のいいものは、じっとしていても自分の所へピタリと戻って来るようになります。うまく飛ぶものが出来たら、カラフルな色を塗るといいでしょう。



注意：当たけがをしたり、物を傷つけたりするので、人のいない方向、物のない方向へ投げましょう。

あぶりだし

- 安全 ○
- おすすめ ◎
- 男子向け ◎
- 女子向け ◎

材料：白い紙、果物の汁や砂糖水
道具：筆、ろうそく



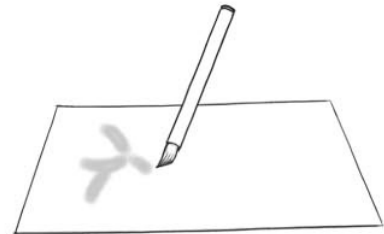
冬の時期によくやった遊びです。白い紙に、みかんやりんごなどの果物の汁で文字や絵を書きます。果汁が乾くと何も書かれていないただの紙に見えますが、これをろうそくの火や掘りごたつの炭火にあててあぶります。すると、しだいに果汁で書いたところが茶色に浮き出て来て、書いたものがはっきりと見えてきます。何も見えないところからしだいに形を現して来るのが、わくわくして楽しいものでした。意外で驚くものを書く工夫をするといいでしょ。

何かが書いてあるとは知らない人にあぶってもらおうとおもしろいです。白い紙に何かが浮かび上がったら、きっと驚くでしょう。それを応用して、年賀状をこのあぶり出しで書いて、真っ白なまま出しました。その時は、火であぶるように、見える字で小さく書いて出すようにしましょう。そうしないと、文面を書き忘れたあわて者だと思われてしまいます。

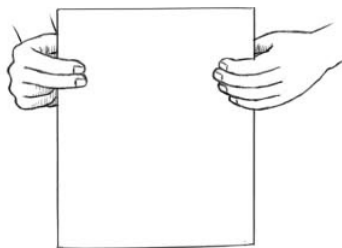
みかんやりんごなど果物の果汁をしぼり、皿などに入れておきます。果物がなければ砂糖を水に溶かしたもので代用できます。



白い紙に果汁や砂糖水を含ませた筆で字や絵を書きます。色がないので乾いてしまうと何をどこに書いたかわからなくなってしまうので、ぬれている間に一気に書いてしまいます。



乾いてしまうと、何が書かれているかわからない、ただの白い紙に見えます。



この紙を、ろうそくに灯した火であぶります。すると、筆で書いたところが焦げたように茶色く浮き出て、書いてある字や絵が現れて来ます。直接火に当てないよう、ゆっくりとあぶるのがコツです。紙を焦がしたり燃やしたないように注意します。



注意：火を使うので、大人の人と一緒にやりましょう。火の扱いには十分注意しましょう。

どろ鉄砲

- 安全 △
- おすすめ △
- 男の子向け ◎
- 女の子向け △

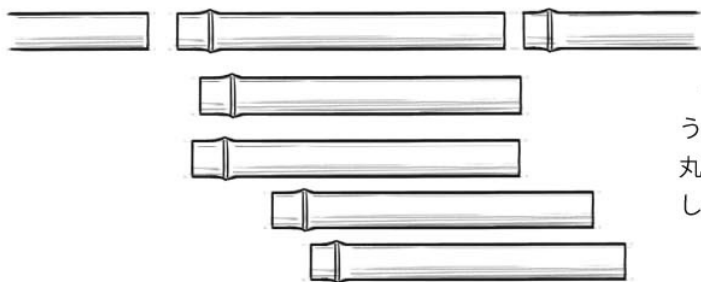
材料：竹、どろ、水
道具：のこぎり、マッチ・ライター



竹筒を使って、鉄砲のようどろを飛ばす遊びです。道具立ては竹とどろと水ですが、たき火と組み合わせるので火を起こす必要があります。そもそもは、これを遊ぶために火を起こすのではなく、たき火のついでに、いたずら半分、好奇心半分でするくらいの遊びでした。蒸気の力を利用してどろの弾を飛ばすという科学の実験の要素もあって、おもしろがってやったものです。その横には、魚を焼く串が刺さっていたりもしました。

鉄砲と名付けていますが、正式な呼び名はなく、たいていはそれほど遠くまで飛びません。竹筒内の圧力を高めることができないと、空気が途中で抜けてしまふことが多く、うまく飛ばないことが多かったです。ぷすっ！ という感じで弱々しく飛び出せばいい方かもしれません。

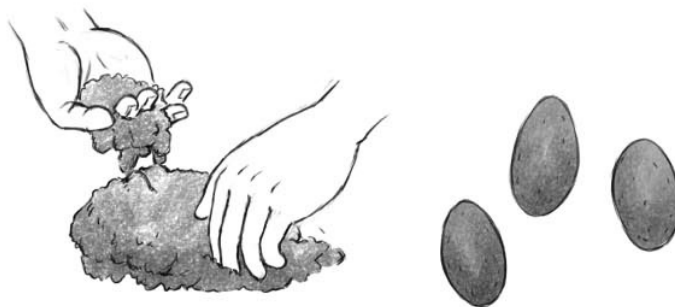
ただ、どんな勢いで飛び出すかわからないので、方向には気をつけなくてはけません。どうしてもうまく飛ばない場合には、どろに小麦粉を少し混ぜてみるとうまくいく場合があります。キャンプなどでたき火をする機会にやってみるのもいいでしょう。



竹は直径が3～4cmのやや太目のものの方がいいでしょう。下側に節を残し、一節を切って使います。竹を一本丸ごと切って、いくつもそろえ、何本か試すのがいいでしょう。

どろは粘土質のきめの細かいもの方がいいです。固めるとき粘り気があって、空気の逃げるすき間のできないものが望ましいです。

どろに水を加え固めにこねます。卵くらいの大きさに、すき間ができないようにしっかりと丸めます。





竹筒が鉄砲の砲身になります。この竹筒に水を入れます。竹の筒の底に、2～3cmくらいでいいでしょう。多すぎてもいけません。この水がいわば火薬の代わりです。

丸めておいたどろを、竹筒の先に固く詰めます。泥の奥行きは5cm程度でいいでしょう。どろでふたをする形になり、このどろのふたが弾になります。そして詰めたどろに水をかけてやります。そうすることですき間がさらにふさがれるのです。

これで準備が完了です。1本だけでは失敗する確率が高いので、同じものを何本か用意した方がいいでしょう。

×



たき火は大人の人と起こしましょう。起こしたたき火に、竹筒を、どろを上にして差し込みます。先に竹筒が燃えてしまうと失敗するので、なるべく炭火になったところに差し込みます。

○

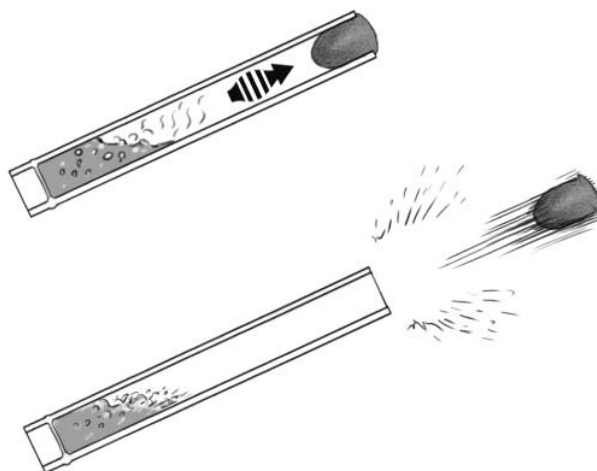


筒の先を少し上に向けて、何本かをたき火に差し込んでおきます。自分たちのいる方向には向けないようにしましょう。そして、様子を観察しながらしばらく待ちます。ときどき、竹筒の先端のどろに水をかけてやり、空気が抜けていないか確認します。その時、小さな泡ができるようだと空気が抜けてうまく飛ばない可能性が高いので、いったん外して、冷ましてからどろを詰め直すなどした方がいいでしょう。



中の水がしだいに温まり、筒内の空気が膨張して圧力が上がります。空気が抜けずに温めることができれば、ある時、ポンッと音がしてどろの固まりが竹筒から飛び出します。

どれくらい飛ぶかは、その時々のお楽しみです。思いきり飛んでくれることを期待しましょう。



注意：火を使うので、やけどや火事に注意しましょう。竹筒も熱くなるので扱いに注意が必要です。

スポーク手裏剣

- 安全 △
 おすすめ ○
 男の子向け ◎
 女の子向け △

材料：スポーク
 道具：ペンチ、やすり

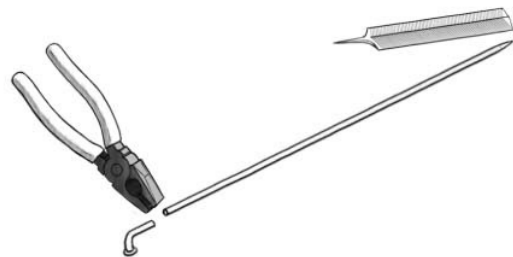


自転車のスポークを加工して作る手裏剣です。手裏剣というより釘や針金といった感じですが、硬くて丈夫なので武器にしたいくなります。細くて硬いため、特別にこみ入った加工をせず、単純にとがらせただけのものです。自転車の車輪を解体し、リムはリム転がしに、スポークはこの手裏剣にとむだなく用いました。もちろん手裏剣の方がわくわくして楽しい遊びでした。

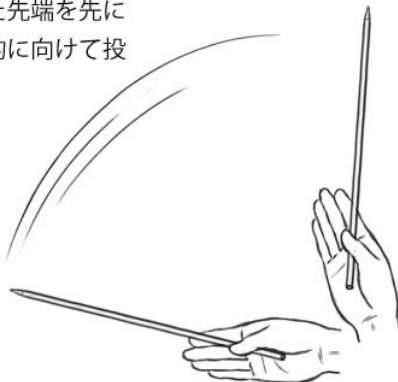
細身で軽い金属の棒なので、重くなるように長めに切って作ります。地面や木や野菜などを的に投げ、刺して遊びました。細身のおかげで刺さりがよく、釘よりいい感じの手裏剣でした。逆に曲がりやすい弱点もありますので、長さの見きわめが大切でした。

不要になった自転車の車輪からスポークを外します。
 自転車のスポークは26インチのもので30cm弱です。

スポークは一端が90°に曲がっていて、釘の頭のようになっています。そこはじゃまになるので、ペンチで切ってまっすぐな針金にします。あとは、そのどちらかをやすりでとがらせます。



そのまま一本で、試しに地面などに刺してみます。とがった先端を先にして持ち、的に向けて投げます。



曲がったり刺さりにくかったら、それより短くします。そのまま一本～半分の長さが目安です。短すぎると軽くなって力が足りなくなるので、少しずつ切り詰めていい長さを見つけます。長めにした方が回転しにくく、刺さりやすいです。

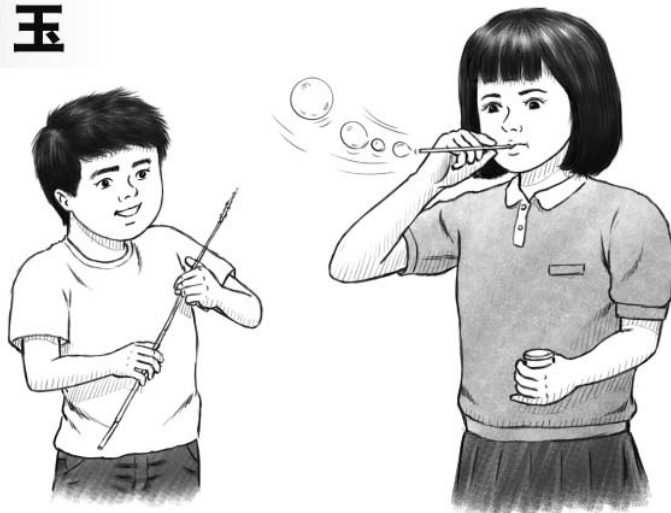


注意：当たるとけがをしたり、物を傷つけたりするので、人のいない方向、物のない方向へ投げましょう。

むぎわらシャボン玉

- 安全 ○
- おすすめ ○
- 男の子向け ○
- 女の子向け ○

材料：麦わら、石けん水
 道具：コップ・茶碗など



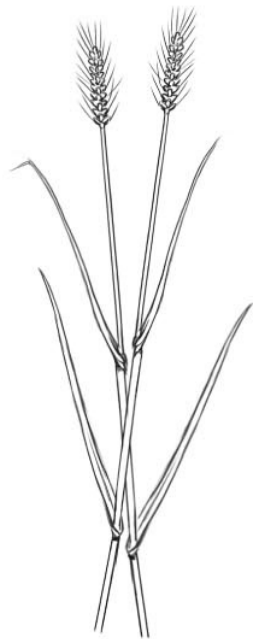
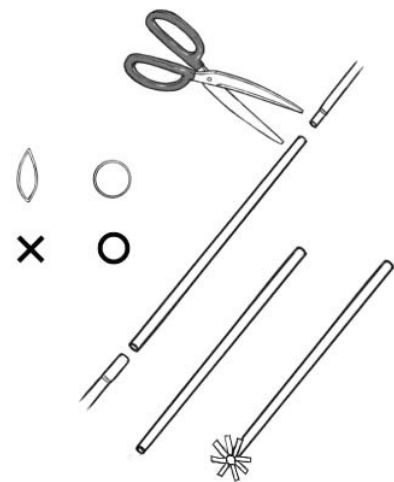
今の時代は、ストローなどあたりまえのようにありますが、ストローなどなかった昔は、麦わらを代りに使っていました。ストローとはそもそも、英語でむぎわらの意味です。もちろん飲み物を飲むこともできましたが、それより遊びに使うことが多く、代表的なものにシャボン玉で遊ぶというのがあります。

仕掛けは簡単です。麦わらの節と節の間が空になっているので、その部分を切り離します。これで麦わらのストローのできあがりです。これをせっけん液につけてシャボン玉を作ります。そのまま使えば、1つずつの大きめなシャボン玉を作ることができます。先を割って花びらのようにすると、小さなたくさんのシャボン玉を作ることができました。石けん液に突っ込んだまま息を吹くと泡の固まりがわき上がって、ビールのようになっておもしろかったです。

むぎわらは、収穫して保存してあるよく乾燥したものを使います。意外に硬くて丈夫で、つるつるとしたきれいな茎です。農家ではありふれた素材でした。

節と節の間をはさみでやさしく切ります。端がつぶれないように切るのが最良ですが、なにも切る道具がなければ、折り曲げて何度か往復すると、ポキッと折れて切り離すことができます。

どちらか一方を裂いて花びらのように広げると、一度にたくさんのシャボン玉を吹くことができます。



石けん水は手洗い用の石けんを細かく削り、水によく溶かしてビンなどに入れます。むぎわらの先をよく浸し、ゆっくりと息を吹きます。シャボン玉のできが悪いようであれば、石けん液を濃くするか、場合によっては砂糖を加えるといいでしょう。

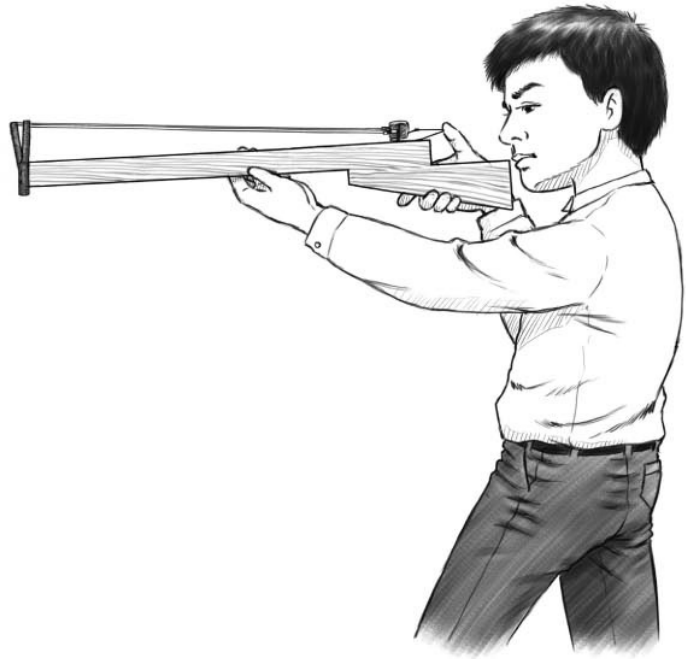


パチンコ銃

- 安全 ×
- おすすめ △
- 男の子向け ◎
- 女の子向け ×

材料：二股の木、ゴムひも、皮、糸、
木の板、釘

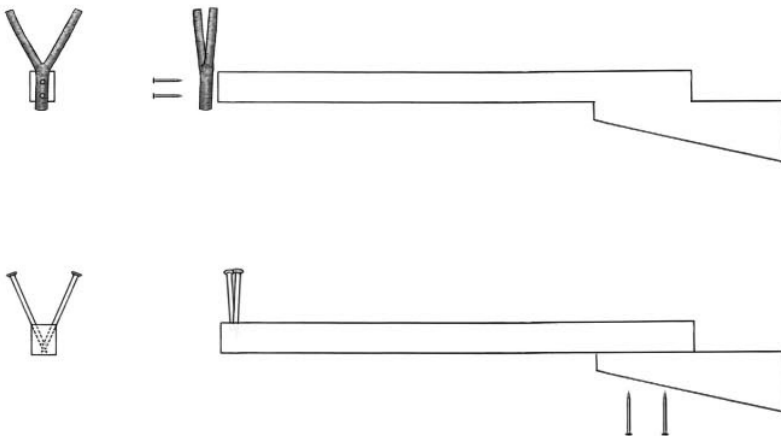
道具：のこぎり、ナイフ、きり、かなづち



別の項で紹介したパチンコを、より強力に、性能をよくしたものです。銃型の土台にパチンコを取り付け、引き金で弾を発射できる仕掛けになっています。銃の土台は木で作ります。ライフル銃のようなよりリアルな形にして、かっこ良く仕上げました。遊び道具というより、武器に近い印象があります。これを持ち歩けば、西部劇のガンマンのようになった気になり、その気になっていろいろなものをねらっては撃ったものです。

普通のパチンコは強くゴムを引きしぼればじぼるほど、持つ手が震えてねらいが付けにくくなります。また、正確にねらおうとするほどゴムをずっと引かなければならず、けっこう疲れるものでした。ところが、この銃にすると、先にゴムの仕掛けで弾込めをしておけば、あとは銃を抱える少しの力があればいいので、とても使いやすいものになります。じっくりとねらいがつけやすく、命中率も上がりました。

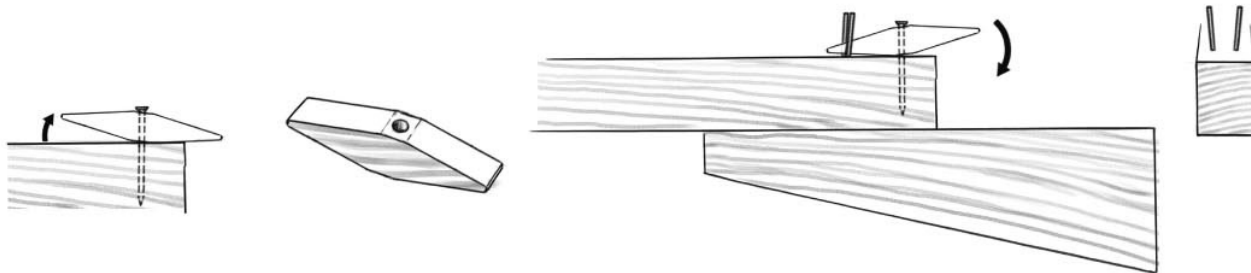
その反面、とても危険なものでもありました。発射の仕組みの作りが甘いと込めた弾が外れやすく、暴発する危険が高いため、十分な注意が必要でした。玉をこめる時は必ず下に向けて行うようにします。また、弾を込めたら、撃つ時以外は必ず下向きに持つようにします。うっかり暴発すると、近くにいる人に当たったり、窓ガラスを割ったり、他のいろいろなものを壊したり壊したりします。もちろん、人や物に向けて撃っては、絶対にいけません。扱いに注意を要するものだったことが、かえって危険なものとのつき合い方を覚えさせてくれる、そんな遊び道具でもありました。



材木を切りぬくか、または木を組み合わせて、銃の形を作ります。

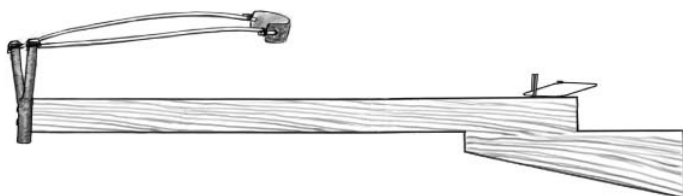
その先にパチンコの本体である、Y字の木を釘で打ちつけます。この銃のには、単独のパチンコよりも小振りなものがいいです。持ち手は短くてかまいませんので、取り付けたあと、銃に合わせて切り詰めるといいでしょう。

Y字の木が手に入らなければ、太めの釘を2本、V字型に打ち付けて代用してもいいです。



発射するための引き金を削り出します。材料は木や竹を使います。1cm幅、5cm くらいの長さの材料を、ひし形に削ります。シーソーのような動きをさせるため、釘で留めるゆるめの穴を真ん中に空けます。

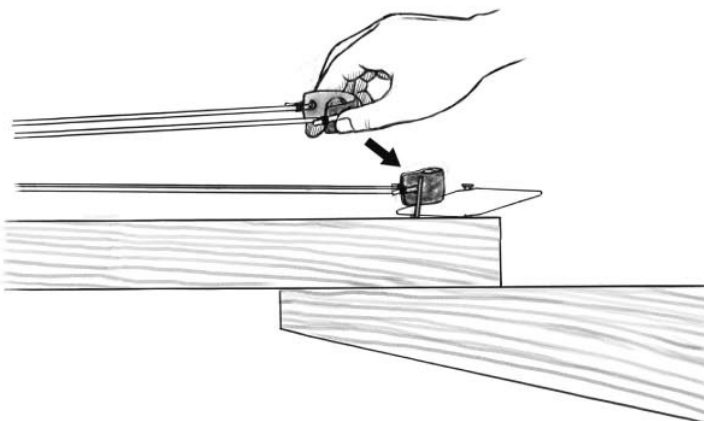
銃身の後ろ側に、頭を取った釘を二本並べて打ちつけます。二本の間隔は1～1.5cm にします。釘は、根元より頭の方を少し広げます。そして、ひし形の引き金をその間にはさみ、一方が少しかかるくらいの位置に釘で軽く留めます。シーソーのように動けばOKです。



Yの字の二又にゴムひもと、玉を包む皮の切れはしを取り付けます。取り付け方は、パチンコのページを参考にしてください。ゴムの長さは銃身の長さに合わせて調整します。

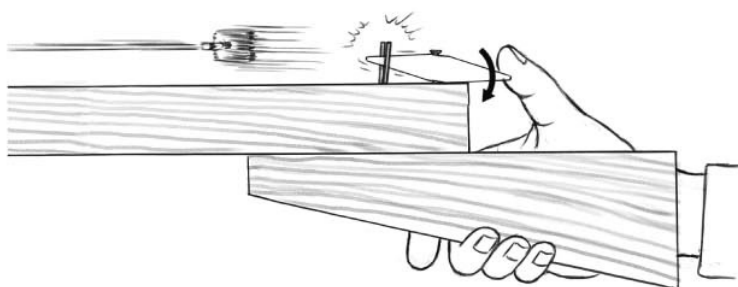
皮に石ころなどの玉を包み、二本釘ではさんで止まるようにします。玉が大き過ぎてても小さ過ぎててもうまく止まらないので、ちょうどいい大きさの玉を使うのがコツです。その時、引き金のシーソーが玉の下になっていれば準備完了です。

ここで注意するのは、弾込めを失敗したり、込めた弾がずりりと抜けて暴発する危険が常にあるので、必ず、銃身を下に向けて作業をすることです。発射する直前まで下向きに持つようにします。暴発して思わぬ方向に飛んでしまうと、大変危険です。



ねらいをつけ、引き金のシーソーを押し下げて玉を上へ押し上げると、皮がゆるんではずれ、玉が前へと飛び出します。

皮がはずれにくいようであれば、釘の開きを大きくしたり、前に少しおして調整します。調整しただけでは暴発につながるなので、その加減が大切になってきます。



注意：危険な遊び道具です。暴発には十分な注意が必要です。もちろん、人や物に向けて撃っては、絶対にいけません。

ろうそくカンテラ

- 安全 ○
- おすすめ ○
- 男の子向け ◎
- 女の子向け △

材料：空き缶、ろうそく、針金
道具：ペンチ、かなづち、釘



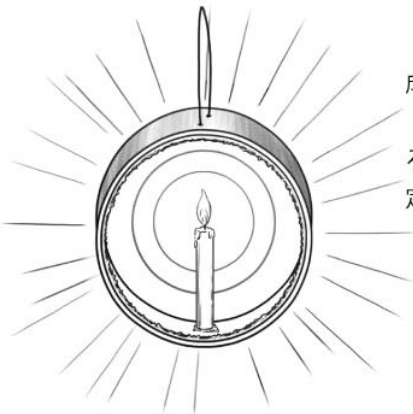
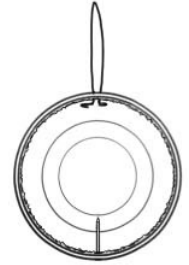
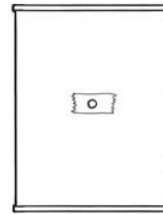
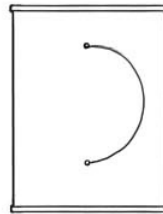
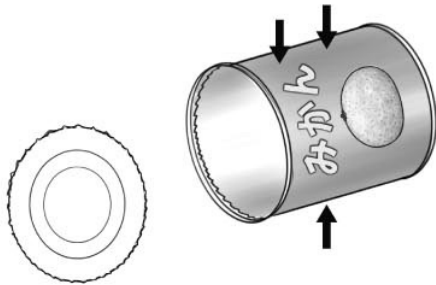
本物は「^{がんとろう}籠灯」といい、懐中電灯のように使った昔の照明器具です。それをまねて空き缶で作りました。時代劇で忍者や悪人が、夜中に行動する時に使っていたのを見たおぼえがあります。江戸時代の偉大な発明品で、桶を横にしたところに地球ごまのような仕組みを持たせ、ろうそくがいつもまっすぐに立つ工夫がしてありました。そこはまねができないので、簡単に作ります。

懐中電灯があったので、持ち歩いて使う場面はほとんどありませんでした。そのかわり、ほら穴の秘密基地の照明にずいぶんと役立ってくれたものです。古くさいという印象よりも、むしろ科学の実験に近い感じがして、自分が発明工夫をしたような気持ちになったものです。

空き缶はなるべく大きく、内側がキラキラしているものがいいです。上の板を完全に切り離します。空き缶の横の、上に2つの穴、下の真ん中に1つの穴を開けます。かなづちで釘をたたいて開けるといいでしょう。

2つの穴に針金を通して、これを持ち手にします。持ちやすいように長さを調整し、抜けないように端を曲げます。

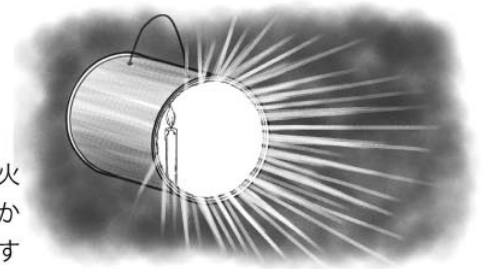
そして、下の穴に、外から中に向けて釘を打ちます。抜けないう、セロテープなどで固定しておきます。



ろうそくを釘に刺して立てれば完成です。

ろうそくに火を点け、釘の根元にろうをたらして立てるとしっかり固定されます。

できたカンテラのろうそくに火をつければ、缶の内側で火の明かりが反射し、前方を明るく照らすことができます。



注意：ろうそくで缶が熱くなるので、やけどしないように気をつけましょう。

石のカイロ

- 安全 ○
 おすすめ ○
 男子向け ◎
 女子向け ◎

材料：石

道具：たき火、ハンカチなど

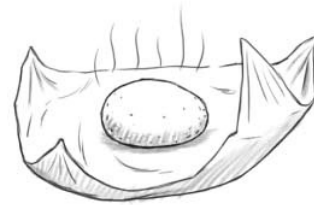


寒い冬の時期、たき火やかまどの火で石を焼き、体を温めるカイロにするものです。遊びというより、生活用品としての使い道でした。

手のひらにちょうど収まるくらいの石を、道端や河原で拾っておきます。たき火やかまどで火に、その石を放り込みます。石が十分に焼けたら取り出します。取り出してすぐでは熱すぎるので、手に持ってもやけどしないくらいの温度になるまで冷まし、ハンカチなどで包みます。

集団登校時に、集合場所で待つ間にたき火をして、その間に焼いた石をカイロにして学校に持って行きました。お昼近くまで暖かさが残り、授業中を気持ちよく過ごせたものでした。家では風呂たきのかまどで石を焼いて、夜には布団の中で暖かく、寒い冬に気持ちよく寝付けたものです。

手頃な丸っこい石を拾って、たき火の中に放り込んでおきます。しばらくすると石が焼けるので、火の中から取り出します。この時はまだ火傷するほど高温なので、しばらく冷まします。



手に持てるくらいの温度に冷ましたら、ハンカチやタオルなどで包みます。



包んだものをポケットやふところに入れておけば、温かいカイロになります。石の大きさや種類にもよりますが、ずいぶん長い時間温かさを保ってくれます。丸い形の石が温かさが長持ちすると同時に、手や体によくなじんで気持ちのいいものでした。



注意：たき火は大人の人といっしょにやりましょう。たき火の火や、焼けた石でやけどをしないように注意しましょう。

サイコロ作り

- 安全 ○
- おすすめ ○
- 男の子向け ○
- 女の子向け ○

材料：ねんど各種、絵の具、ラッカー

道具：定規、鉛筆、紙やすり、筆

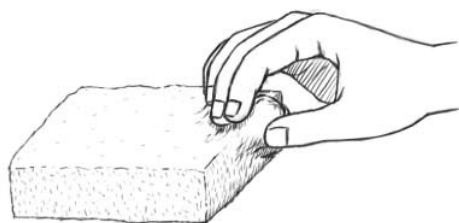


すごろくなどで使うサイコロを、手作りする遊びです。ねんどをこねて作りますが、作ってみると以外に面白く、それが一つの遊びになりました。

正確なサイコロにしようときれいな四角形を目指し、集中して取り組んだものです。しかし、なかなかきちんとは作れず、それがまた何個も作るようになって、たくさん不出来なサイコロが出来ました。でも、気にしなければ多少の偏りがあっても、すごろくなどの遊びに十分使えました。

逆に、釣りのおもりを埋め込んで、時代劇の丁半賭博に出てくる、いかさまサイコロを作って、どれだけ普通のサイコロと違うのか試したりしたものです。

材料と作り方にこだわれば、それなりにきちんとしたものができます。単純な形ですが、造形のセンスが試されるおもしろい遊びでした。



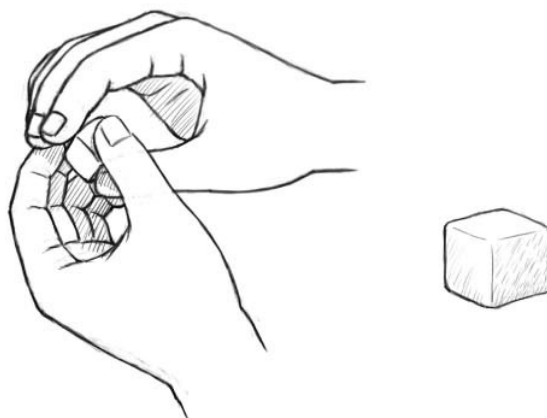
ねんどは乾いて固まる、紙ねんどが作りやすいでしょう。仕上げに削ることもできます。樹脂ねんどは、うまく作ると仕上がりがとてもきれいになります。

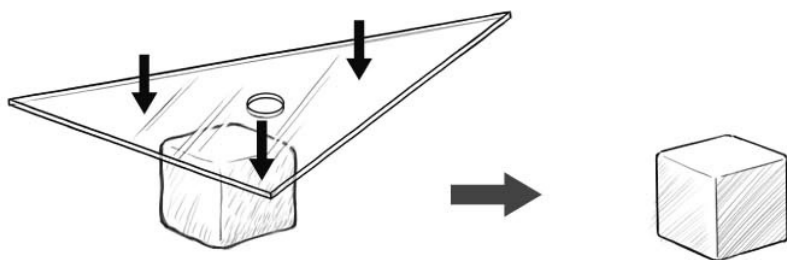
ねんどをちぎって丸めます。2～3 cmの大きさにします。

丸めたねんどを、両手の親指と人差し指ではさみながら、少しずつ立方体に近づけます。

6面ができるので、それぞれを真四角に、大きさが同じになるように揃えます。また、面が傾いたり、ゆがんだ四角にならないように整えます。角もできるだけとがった角になるようにします。ここの作り方の良し悪しが出来栄えに大きく影響します。

この時、多少の凹凸は気にしないでおきます。



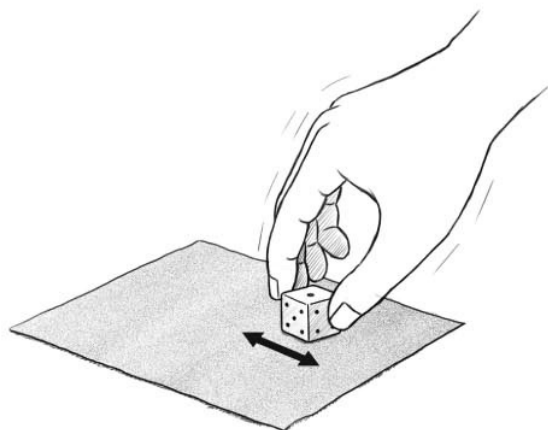
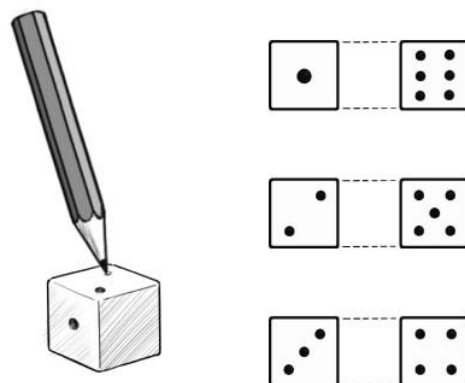


定規の平らでつるつるした面に1面を当て、軽く押します。形がつぶれないよう、小さな力で押し、面を少しずつ平らにします。1度できれいな平らにならなくてもかまいません。ある程度平らになったら、他の面も同じようにし、きれいな立方体にします。

樹脂ねんどはここまでの作業で形を完成させます。

サイコロの目は表と裏でたすと7になるので、1と6、2と5、3と4、の組み合わせになります。鉛筆で面に小さな穴を掘るように、それぞれの目を入れます。入れたらひとつおりの完成です。

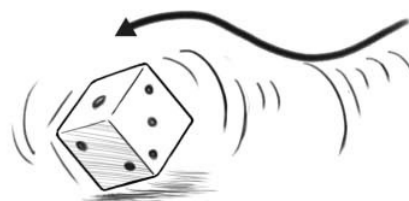
1日か2日おいて、固まるのを待ちます。樹脂ねんどはそれで完成です。



紙ねんども完成でいいですが、紙やすりで削って形をよりきれいにしてもいいでしょう。さらに、目を黒や赤の絵の具で塗ってもいいですし、面をカラフルな色で塗ってもいいでしょう。

紙ねんどはこわれやすいので、丈夫にしたいなら表面にラッカーを塗ります。ラッカーを塗ると、つやつやした立派な仕上がりになります。

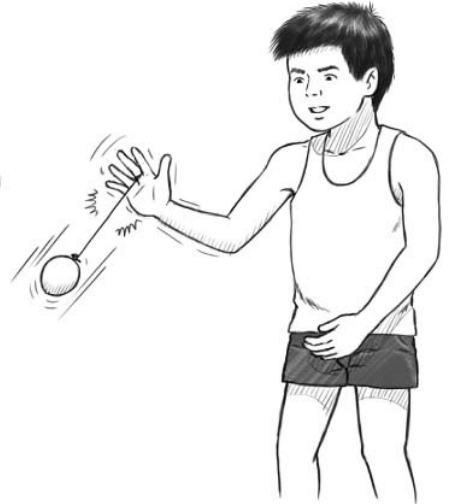
いかさまサイコロを作るなら、大き目の釣りのおもりやパチンコ玉を片寄った場所に埋め込んで作ります。見るからにへんな転がり方をする、おもしろいサイコロになりますが、動きでばれるので、真剣な遊びには使わないようにしましょう。



アイスボンボンヨーヨー

- 安全 ○
- おすすめ ○
- 男の子向け ○
- 女の子向け ○

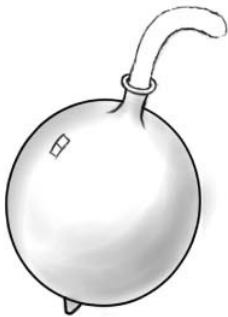
材料：アイスボンボンの風船、
ゴム
道具：水道の蛇口



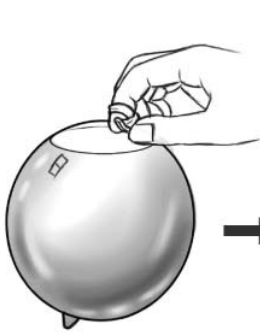
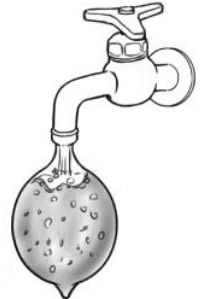
昔、アイスボンボンというアイスクリームがありました。ゴム風船の入れ物で、中にアイスを詰めて口をゴムでしばってありました。食べる時には、ゴムを外すか、あるいは、反対側のおっぱいのような突起をはさみで切って、手で溶かしながら吸うように食べます。この入れ物のゴム風船、普通の風船よりもかなり丈夫でした。突起をはさみで切って食べると穴が開いて使えなくなるので、もっぱら、ゴムでしばった方をいねいに外してから食べたものです。しかし、ゴムが強くて風船のように簡単にふくらますことはできません。

そこで、空気ではなく水の中に入れます。口では無理なので、圧力の高い水道の蛇口で入れるのです。水を入れたら、口をしばって水がもれないようにします。ゴムを結び、お祭りのヨーヨー釣りと同じにします。かなり重みのあるヨーヨーが出来ます。丈夫で、うっかり落としても、ゴムまりのように弾んでなかなか割れません。なつかしいお菓子ですが、今でも発売しているメーカーがあるようです。

口をしばっているゴムや留め具を外し、中身を食べます。すると、小ぶりでゴムの厚い風船が取れます。



口を水道の蛇口にはめます。外れないようにしっかり持って、バルブを少しずつ開き、中に水を入れます。



口をしっかり結んで水が出ないようにします。ゴムを結んで出来上がりです。一本の長いゴムが適当ですが、なければ輪ゴムを2、3本つないで結んでもいいでしょう。



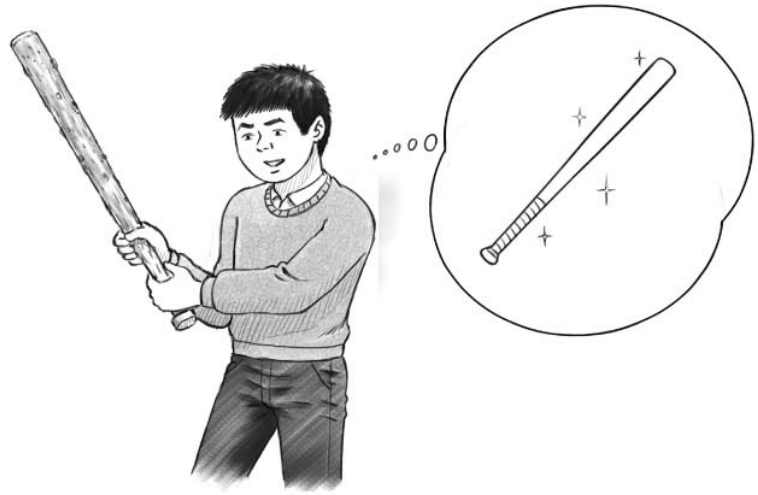
ヨーヨーのようにはじいて遊びます。

注意： 破れると水が勢いよく飛び散るので、家の中では遊ばないようにしましょう。

手作りバット

- 安全 ○
- おすすめ ○
- 男子向け ◎
- 女子向け △

材料：杉の丸太
 道具：のこぎり、ナタ、かま



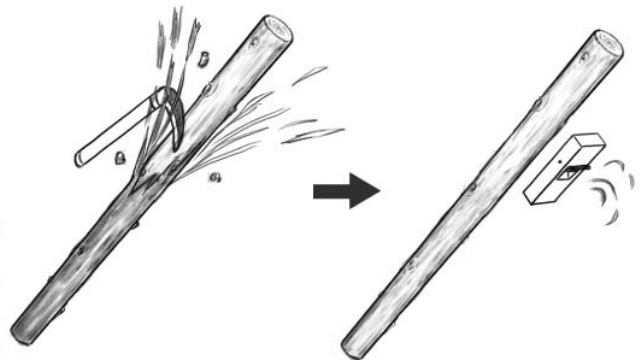
野球やソフトボール用のバットは、今でこそさまざまな種類があり、比較的安価で手に入れやすいものです。しかしその昔は、値段も高くなかなか買ってもらえるものではありませんでした。グローブをやっと買ってもらえるくらいで、他に兄弟がいると、その分は座ぶとんを縫って作ったものを使う子もいたくらいです。

学校ではちゃんとしたバットを使うことができましたが、自宅や近所で遊ぶ時など、ちゃんとしたバットがなかったりします。そこで、お父さんが木の棒に滑り止めのグリップを刻み、手作りしてくれたものを使いました。長さは良くても、いびつで枝を落としたあと、木の皮まで残っていたりします。でも、その辺から引っこ抜いて来たような棒杭そのままのバットは、丈夫で、当たるとけっこうよく飛んだものでした。



長さが60～70cm、太い方の直径が5～6cmの丸太を用意します。農作業用の棒杭がちょうどよく、それを流用しました。

枝が残っていれば、ナタやかまできれいに落とします。皮も、木の肌が出るまではがします。そしてさらに、凹凸をカンナできれいにならします。



細い方の端から2cmくらいに、深さ1cmほどの切込みを、1周ぐりと入れます。

切込みの上、15cmくらいまでを斜めに削ります。この時、端の2cmはグリップエンドになるので、一緒に切り落とさないように注意します。

グリップエンドを面取りし、丸みをつけて持ちやすくします。さらに、バットの先端も面取りをし、角を丸くして出来上がりです。



壊れてもおしくないなので、ボールの他、落ちた柿の実や出来そこないのスイカ、石ころなども打ち、かえって楽しめました。

To Be Continued

**手作り遊び
PART 4**

に続く